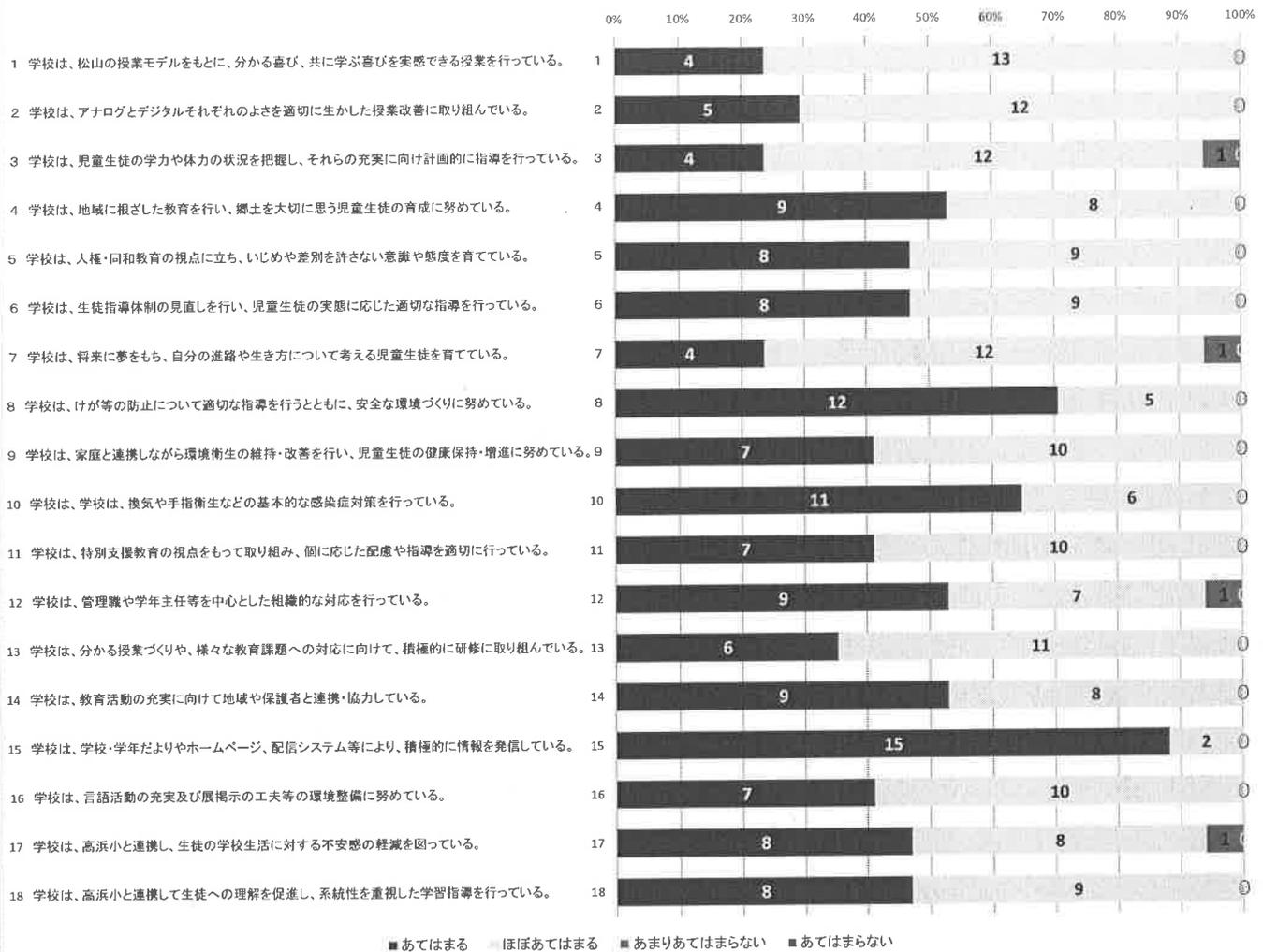


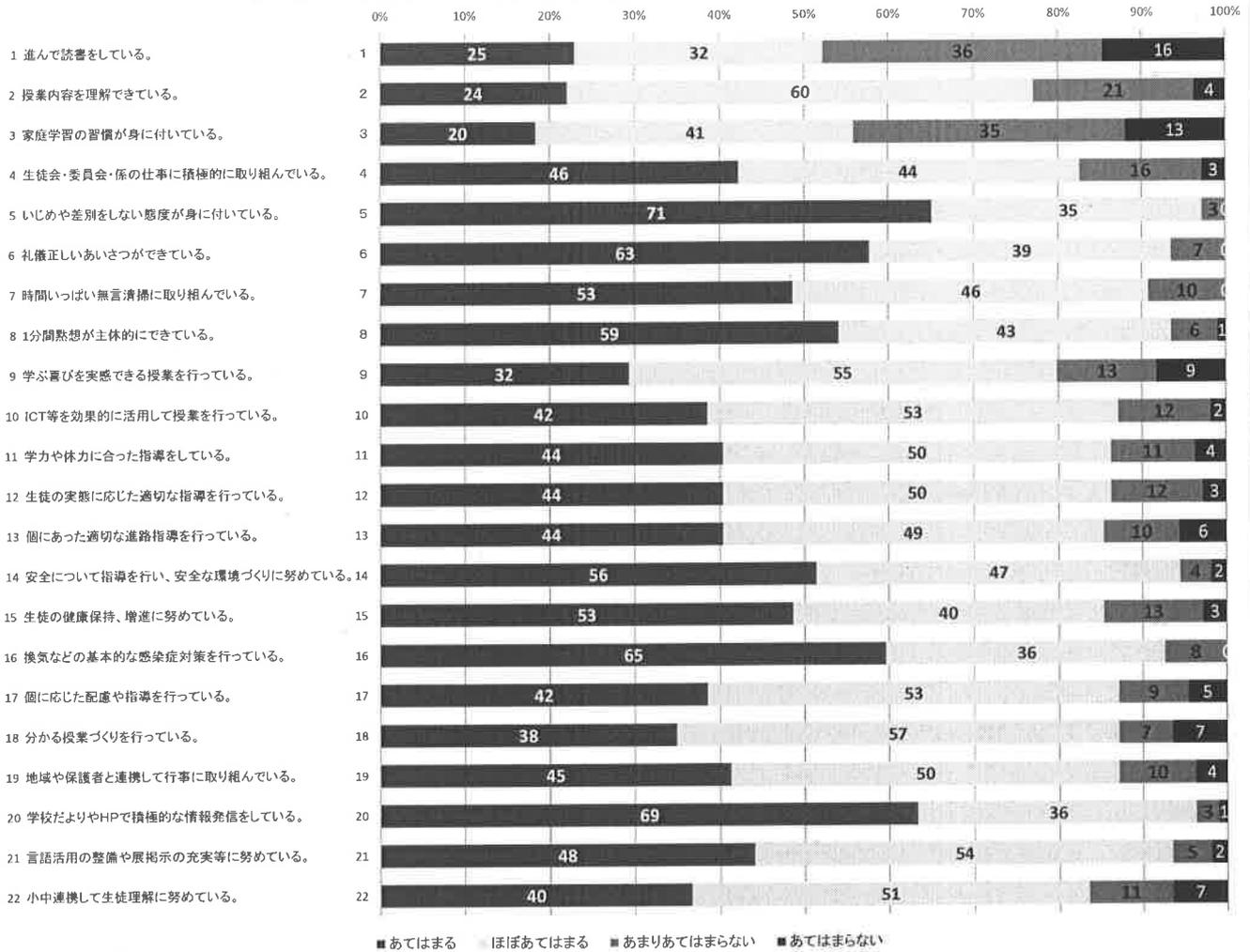
令和6年度 12月自己評価(教員用)の結果



【考察】

- 最も評価が高かったのは、昨年度に引き続き、項目15「情報提供」である。行事や諸活動のあと、迅速にHPにアップしたり、学校生活の様々な場面に視点をあてて、幅広く情報発信したりしている。また、どの学年も「学級通信」を配布し、生徒や保護者に寄り添った情報発信ができています。学校便り「朝風」も、すべての教員が分担して作成し、家庭や地域へ発信ができています。
- 次に評価が高かったのは、8「安全管理」である。管理職や安全教育担当者から、要所で気の緩みをなくすような助言、時には研修の場を設けるなどして、教職員全体の危機意識は高まっていると感じる。何かが起こる前にしっかりと予測し、妥協せず策を講じることが大切である。日頃から「ヒヤリ」、「ハッ」とした危機の事例や経験をしっかりと共有し、危機意識を一層高めていきたい。
- 「あてはまる」が少なかった項目は3つあった。
 1つ目は、項目1「教育課程」である。「松山の授業モデル」を意識した授業展開、高浜型授業の「学習課題」「言語活動」「振り返り」を意識して、今後も研鑽を深めたい。
 2つ目は、項目3「学習指導」で、学力調査の分析や自学の時間の工夫、体力アップ計画の実施、ICTへの積極的な取組など、できることを1つ1つしっかりと積み重ねていきたい。
 3つ目は、項目7の「キャリア教育」で、再度全体計画や年間指導計画を確認し、どの段階でこういった手立てが有効なのか、「コミュニケーション能力」や「課題解決能力」など、必要な諸能力が育っているかなどを分析し、生徒たちが「自分らしい生き方」ができるよう導いていきたい。
- 昨年度低い評価だった項目17,18「小中連携」は、大きく改善されてきた。小中連携研修会を複数回実施したことで共通理解や改善が図られたと感じる。

令和6年度 12月学校評価(生徒用)の結果

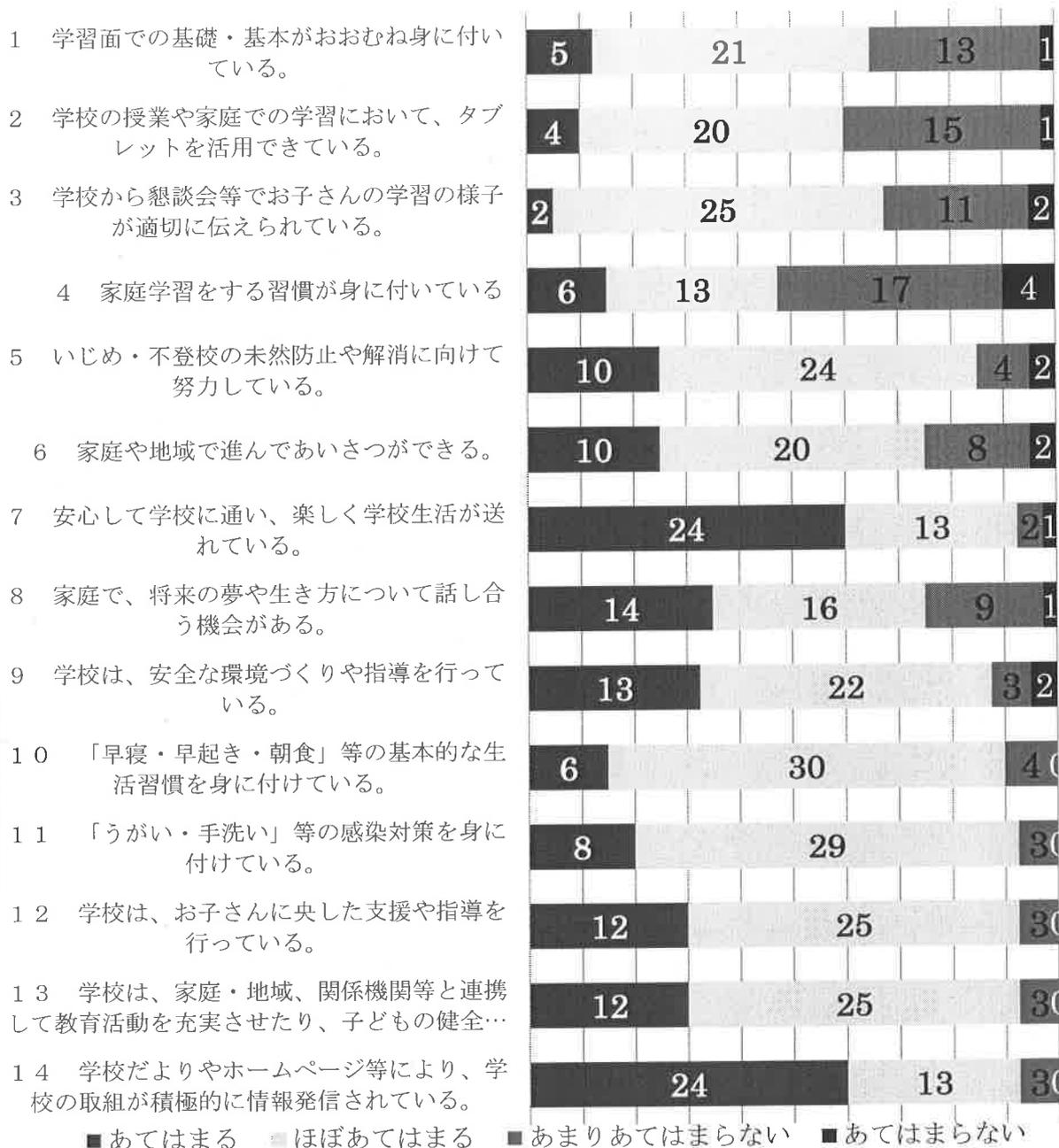


【考察(令和5年度との比較を含む)】

- 約半数の生徒が「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と答えた低評価の項目は2つある。
1つ目は、項目3「家庭学習の習慣が身に付いている」である。昨年度1学期よりは若干向上しており、「あてはまる」と答えた生徒も倍増してはいるが、他の項目と比べるとまだ低い。全教職員で課題の確実な見届けからしっかりと取り組んでいきたい。また、3年生が最も評価が低く、進路相談などを通してしっかりと将来を見据え、自分に合った学習方法を見つけられるよう助言していきたい。
- 2つ目の低い項目は、項目1「進んで読書している」である。昨年度よりも「あてはまる」「ほぼあてはまる」の割合は約10%減っており、残念な結果となっている。毎日朝読書を行っている1年生が若干よい結果となっており、毎週水曜日は全学年朝読書にする、など定期的に読書の時間を確保することが有効だと考えられる。学校図書館支援員や図書委員会協力の下、好結果につなげていきたい。
- 「あてはまる」「ほぼあてはまる」の割合が合わせて95%を超えている項目の1つが、項目20「積極的な情報発信をしている」である。教職員の学校評価でも同様の結果が出ており、情報発信量が増えていることを生徒も感じており、引き続き生徒や保護者のニーズに沿った情報発信をしたい。
- 95%を超えているもう1つの項目は、項目5「いじめや差別をしない」である。数値的には高い評価であり、「あてはまらない」と答えた生徒が1人もいないことはたいへん喜ばしいことである。しかし、自分のその態度がいじめや差別につながっているかもしれないと気付いていないということも考えられる。数値を過信することなく、引き続きいじめや差別を許さない態度を身に付けさせ、様々な人権問題の解決に主体的に取り組む生徒を育てていきたい。
- 項目9「学ぶ喜びを実感できる授業を行っている」は、1、2年生は90%以上が「あてはまる」「ほぼあてはまる」と答えているのに対し、3年生は63%であり、「あてはまらない」と答えた生徒も多い。これは、「学びたい、分かるように教えてほしい」という生徒からのSOSであると捉え、個別対応の工夫を行うとともに、放課後の学習相談なども可能な限り検討していきたい。

令和6年度 学校評価（保護者用：全校）

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



【ご意見と対応策】

＜最近、学校や先生に聞きたいことが聞きにくく、分からないことが増えました。＞

気になることがあれば遠慮なくご相談ください。学級担任他、学年主任、生徒指導主事、教頭などで対応します。

＜中学校生活も残りわずか。高中でしか味わえない今を大切にしてほしいです。＞

私たちも同感です。小規模だからこそ学年を超えて交流したり、学級編成がなく持ち上がりたりと人間関係を深めることもできる環境にあります。生徒と教員相互に意見を出し合い、より充実した学校生活になるよう努力してまいります。

＜普通に授業を受けただけでは理解できにくい部分がありますので、より一層のフォローをいただける体制があればいいと思います。＞

テスト前には自習室開放などの取組を行っています。教職員数の関係で複数教員での指導は数学科と英語科に限られていますが、学年、教科を超えて質問などに応じますので、気軽に相談できる体制を整えていきます。